飯田たつおか報

発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館
広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
上郷町黒田電(22)5353

公民館活動の前進を
分館活動の充実へ

▽……四月以来、各委員会で討議された、昭和五十三年度の事業計画……△
▽……は、五月二十八日の委員総会において、決定された。……△
▽……本年度の基本方針は、①文化、体育グループの育成……△
▽……②学習活動の推進、援助③分館活動への援助……△
▽……の三つの柱を立て、地区民誰もが気楽に参加できる公民館づくり……△
▽……を目指している。……△

各委員会の年間目標及び計画は次のとおり。

◉企画会議
一、公民館の一切の事業、活動を総括し、審査、調整する機関。
二、年度始めと、各事業の前後に必要に応じ開催する。
三、分館研究、交流の機会をもつ

◉文化委員会
一、市民セミナー、テーマ「住民総参加による健康づくり」の推進。
二、グループの育成
三、講演会への援助

〔事業〕
① 史跡めぐり　七月
② 盆踊り　八月
③ 敬老会　十月
④ 新春放談会　一月
⑤ 文化祭　二月

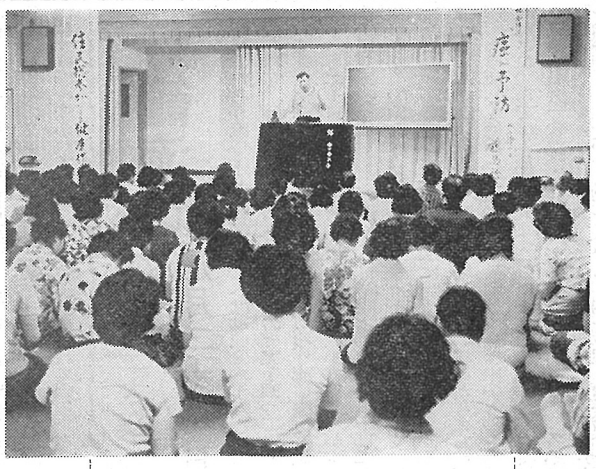
◉体育委員会
一、誰もが気楽に参加できるスポーツ教室、グループの育成、女性参加を目標に、夜間ソフトボール、バドミントン、水泳、青年剣道、少年卓球の各教室。
二、竜丘公民館独自の体育指導者グループを組織し、専門的リーダーの養成。
① 早起き野球　四月
② 市民体育祭　五月
③ 盆常会野球大会　八月
④ 運動会　十一月
⑤ バドミントン大会　十二月
⑥ 卓球大会　二月

◉民俗資料保存委員会
① 資料への名札の付替
② 「古老の語る竜丘」の目次整理及び一覧表の作成
③ 不足している資料の収集
④ 資料館内外の清掃及び修繕

◉広報委員会
一、分館委員（広報担当）との研修会を行ない、お互いの知識と技術を高める。
二、館報の謄刷版発行に向けて、研究会をもつ。
三、公民館活動を支える広報活動に努める。
① 館報発行、年四回
② 分館広報担当委員との研修会その他に青年学級、婦人学級、高齢者学級への援助、助言。

◉市民セミナー
最近地区内で成人病の発生が若年化し、又亡くなられる方が増えています。
そこで成人病（脳卒中、心臓病ガン、糖尿病等）の予防或いは早期発見等の措置と日常の健康管理を、総合的に推進しようという趣旨で公民館が主体となりセミナー形式により、地区内の関係機関、各種団体を結集し、それらを実行グループとして、（住民総参加による健康づくり）を統一テーマに選定し、それに対応した事業計画を立て、更に適切な指導・助言が得られるように講師を配属し、地域課題に取り組み、活動を通じ、地域全体への効果波及を期待するものである。

◉グループ援助規定
一、全地区的なグループ等（会員は二十名以上）で継続的な事業が行なわれるものについては、結成年度から三年間、年五、〇〇〇円を援助する。
二、分館単位で行なう、グループ等については、本館では援助しない。但し分館事業として行なう学習会については、講師を依頼した場合、謝金として、年二回以内で一回につき五、〇〇〇円以内の半額を負担する。
三、文化、体育関係のグループ等で、教育委員会、飯田市公民館等の大会、発表会に竜丘公民館の代表として出場した場合には出場賞として五、〇〇〇円。入賞（三位以内）した場合は、入賞費として二、〇〇〇円追加補助する。
但しCブロック大会に於ては、入賞費は補助しない。
右記一、二、三に該当し、援助を受けた場合は、予め事業計画書を提出し、終了後に実施報告書を提出すること。尚この規定は、活動促進のためのものであり、活動状況及び予算上の問題が生じた時は、打ち切ることもある。


7月4日市民セミナー発会式

青年の主張
プロ農業者

家業の農業を手伝う様になって二年目、我家の経営もどうやら少しづつわかりかけて来た自分ですら高校を卒業して研修に出ていた私でしたが、母が体を悪くした為、もう一年の研修期間をあきらめ家に入る決心をし、わけもわからないままここまで来ました。研修中都会の人とも接してあまりに都会の人は農業を知らないと感じました。むりもありません、都会には物質文化はあっても自然文化がなく金銭で作られた文化には温かさというものがありません。近年都会の人々の間で一アールほどの農園を持ち、野菜などを栽培するのが一種の流行だと聞きました。

家業の農業を手伝う様になって二年目、我家の経営もどうやら少しづつわかりかけて来た自分ですら高校を卒業して研修に出ていた私でしたが、母が体を悪くした為、もう一年の研修期間をあきらめ家に入る決心をし、わけもわからないままここまで来ました。研修中都会の人とも接してあまりに都会の人は農業を知らないと感じました。むりもありません、都会には物質文化はあっても自然文化がなく金銭で作られた文化には温かさというものがありません。近年都会の人々の間で一アールほどの農園を持ち、野菜などを栽培するのが一種の流行だと聞きました。こうして農業にわずかでも親しみを抱いてもらい、そして食糧を少しでも粗末に出来ないという心を育てるのはよいことであると思います。

しかし都会の人が休日に行なう農業はどこまでも生活に潤いを持たせるだけのアマの農業だという農業者であり、プロの世界はスポーツ同様アマがそのままで入り込めるものではないと思います。

最近都会から農村へのUターン者きました。これらの農業者は農業によって生きていかなければならないプロの農業者であり、プロの世界はスポーツ同様アマがそのままで入り込めるものではないと思います。

最近都会から農村へのUターン者が増えているとよく耳にします。このUターン者の中にはきわめて優れた今までの慣習に左右されない新しい構想を打ち出す人もいるが、大多数がプロの農業者には勝てず農村を棄て都会に帰る場合も多いと聞きます。最近の農家には親は働けるうちだけ働いて息子は学校を出し、給料取りをさせ親が働けなくなってから農業に就かせれば良いといった場合が多いようです。三十代を越し四十代に近くなってから農業に入ってみても農業の形は出来るかもしれないが、農業を本当に理解し、徹することは出来ないかもしれません。そこには中学卒業時点での進学指導にも問題があるのではないか?。Uターン者が多くなって来てはいてもやはり農村からの流出は続いています。悲しいことですが、考え方では日本農業改善の動機にもつながると思います。しかし優秀な人材まで流れて行ってしまっては改善どころではありません。これからは農業者の数ではなく質であると思います。我々は自分の住む地域をよく見廻し仲間と話し合い共に農業を通じて地域の発展と向上を図り、プロの農業者に徹する努力をしなければならないと思います。

（伊藤啓一）

婚儀改善を

竜丘地区生活改善推進委員会では、五十三年度事業の一貫として六月中旬～月末にかけて、全戸配布のアンケート調査を行なった。生活改善の内、特に婚儀について地区民の声を聞き、改善の足掛りとすることが目的。現在アンケートの集計分析中であるが、結果の発表が待たれる。又結果が今後にどう生かされていくかに注目していきたい。

生活改善については、昔から色々と議論されてきており、合意のできたことについてはすでに実施されているが、まだまだ色々な面で改善の余地がありそうです。香典返しの廃止、病気見舞の返礼（はがき）等は生活の中にとけこんできている。しかし婚儀については、多くの方々が問題ありと考えているが、なかなか改善できないものの一つである。一例を上げると「特別に深いつきあいでもないのに結婚式に招待されることがある。特別な理由がない以上欠席することは失礼となる。この頃は御祝儀も少しばかりはもっていけない。頭を悩ませる。結婚式に出席しても知らない人ばかり。まして本人ともあまり面識がない。心からお祝いの気持もわかない。お酒を少々いただいて帰りには籠盛りと記念品をもらって帰る。籠盛りも大してありがたくない。記念品もどんなものか見てから押入の中へいれたきり……」こういうことを経験された方も多いのではないでしょうか。この例の中に考えさせられる問題が含まれているように思う。やはり結婚式の主役がだれなのか……この辺の考え方で結婚式の中身を左右するのではないでしょうか。今の程度行なわれているかわからないが、会費制結婚式等は大変良いことである。やはり婚儀改善には、義理にとらわれない新しい考え方、なんといっても若い人達の考え方をとり入れていくことが大切であろう。

今回のアンケート調査の結果をたたき台にし、地区内に議論を呼びおこすような対応をしてもらいたいものだ。

小学校　二期工事陳情

小学校北館の新築に引き続き、南校舎改築工事が、地区住民より望まれている。北館新築以来、特別教室として使用されているが、老朽化が進み、五十五年に至っては、児童数の大巾増員が予想され現在の教室数では間に合わなくなる事から取り壊し、教室数の増築特別教室の拡充等が必要となり、これらを盛り込んだ陳情書が、自治協議会、PTAを中心に、去る五月九日市長及市議会議長に手渡された。

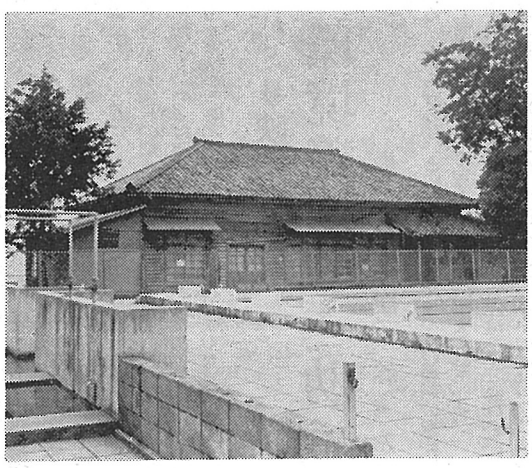
市としても一校一棟主義の方針がある中に、陳情をすぐ取り入れる事は容易でなく、困難な状況はまぬがれない。地元の熱意と意欲を合わせて政治力も必要か。

一期工事に続く環境整備計画の一環としても、第二期工事が、早い時期に着手される事が切望されている……。

「資料館も移転陳情」

過去に文化委員を中心に、地区の多くの協力を得て、村の資料が沢山よせられた（耕作用具、書物衣類、ポンプ等）昔の貴重な資料が一千点以上陳列されている。プール南側、元記念館は毎年、委員の手により、雨もり、床、壁の補修が続けられているが、何分にも古い建物の故、管理も思うように出来ないのが現状、村の記録を残すものの一つとして、沢山の貴重な物が多く、何処かに移転し、市管理のもとに多くの資料を完全に保管する事が望まれる。市立考古資料館（開善寺）は立地、管理等良く、見学者も多い。住職の橋本氏の理解も大きく、陳情により予算面の確保が出来れば、村の記録も後世、永年保存出来る事と成る訳だが……。

六月定例市議会の最終日は、二十八日に行われた各地区の陳情請願の委員長報告があった。この中に竜丘小学校第二期工事、民俗資料館移転設立の陳情請願は、いづれも継続審査及び継続審議が行われる事と成り、事実上六月市議会では可決されず、次回に持ち越される事と成った。



随想リレー【107】

竜丘区民となった弁
時又　今村定男

昭和四十三年五月十五日の飯田市臨時議会は、時又と川路の字境の変更を議決した。これは三六災による家屋移転完了後の地理的条件の変化から、時又地区編入を希望するそこに住む住民の意向を両地区が了承し、市が採った措置だった。これによってその時から川路一区の住民は、居ながらにして時又区民となり、竜丘地区の住民となったのである。

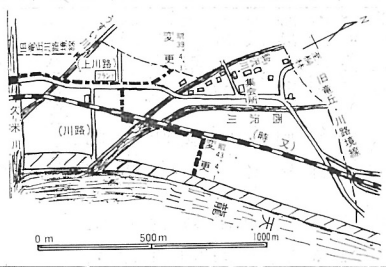
あれから十年も経つ今も未だに「いつ時又へ引越して来たのか」などと聞かれる。元村の川路の人のうちには久米川以北は残らず時又へ入ったと思っている人も多いようである。まして他地区の人で私達の昔を知る人にはどうも合点がいかないらしい。それ以前にも三六災の災害復旧の時、弓なりに湾曲していた久米川を真直ぐにしたため上川路分の一部耕地が川路へつけられ、そのかわり久米川より北の川路分から上川路へ加えられている。字境線は図のように引かれた。

この所を「嶋」というその昔は天竜川の中洲だったところから川の埋立てによって地続きになった後も「嶋」と呼ばれていた。

明治二十二年六月下川路村では十一の集落を行政の利便から八つの区に分けることとなり、「嶋の平」は一区ということに決った。爾来七十九年間川路一区と呼ばれて来たが、時又編入によって解消した。したがって現在の川路は二区から八区までの七部落である。

川路一区は、また元の「嶋」に戻った。小さな部落だが「貝暮ケ淵の伝説」とともに「嶋」の名を大切に残していきたいと思う。

随想と云うにはいささか不向きだが、尊い紙面をお借りして私達の住む部落の変遷を記してご理解を賜わり、標題の弁とします。



ヤブ蚊

◉「黒瀬が淵」ここは天竜舟下りの記念写真のバックに写され、全国の観光客に配られている湯の瀬下の対岸になる。ここに明治二年に築かれた初代南原橋の由緒ある場所である。竜丘側の岩には橋の跡と思われる穴が数個有る。残念ながらこうした歴史有る場所に説明書の案内板ぐらいは有っても良いはず。

◉最近「歩こう会」「史跡めぐり」盛んになっている。今後も低成長、健康増進から益々盛んになるだろう。史的財産の豊富な竜丘の役割は大きい観光資源であり、今後益々注目されるだろう。竜丘の一つの生き方になるかもしれない民俗資料館も古くなっているこうした所へ投資も必要では。

◉緑ケ丘中学校も開校二十周年を迎える。記念事業として四十五名編成のブラスバンド楽器を新調しやまびこ国体の開会式に参加し、対外コンクールに上位入賞を期する計画である。三二二万円を要し市から五十万、国体から十万の補助があり、竜丘では生徒数に応じ七三万三千六百円の負担金。自治会で協議し、一戸当り五百円、PTA会員は千円になった。寄附となればずんなり受け入れてしまう傾向にあるが、事前に緑中、PTAがブラスバンドの必要性を地区民に訴え、自ら中心となって行なうべきであろう。今年は国体開会式へ参加するものの、今後の活動や管理を寄附した我々は見守って行かねばならない。ブラスバンドが学校教育に必要ならば教育費で備えられるべきであろうが。

◉米価運動の盛んな中で、今年度減反の現地確認が行なわれる。これにより水田利用再編成対策と呼ばれる大巾減反第一年目の方向が出る。行政、農協では数字の集計や奨励金の計算に終る事なく、農家の声や今後の新しい竜丘農業の方向付けが問題ではなかろうか。

◉「資源の無い日本では土とそ永久的な資源だ」とある農家の方が語られた。減反がされ、蚕を飼う農家が減り、農地の虫食いが進んでいる。土は生きている。食糧を生産し人の健康を左右する。永久的な資源から無限の生産が上る。農業委員の改選を期にもう一度考えてみたいものである。

社会体育振興資金の成果

柔道教室盛ん
―新しい畳で受身の練習―

公民館の柔道教室は、昨年十一月発足以来道場に桐林公民館を借り、毎週土曜日の夕方五時より七時まで行なわれている。

参加対象者は小学生から一般の男女と広く、現在は百名近い教室となっている。六月末の土曜日に教室を訪ねてみた。最近地区の皆さんの協力で『社会体育振興資金』が集まり、その募金の一部で購入された畳が広間一パイに百畳敷き詰められ、有段指導員により準備体操が行なわれ、手首・足首を回す事から始まり、腕立て伏せ二十回などと時間を充分かけて行なわれる。

指導員は六名程が担当。道場となった公民館の正面には、元館長木下富士氏の筆で〝練夕鍛朝〟の額が掲げられ、上座（かみざ）として大切にして練習の始めと終りには〝礼〟が行なわれている。

〝礼に始まり礼に終る〟柔道の精神を大切に教えているようだ。

準備運動が終ると受け身が行なわれ、前方回転、打ち込み、乱取りと指導員がその都度手本を示しながら練習が行なわれ、これが初心者かと驚く、小学生も一般大人も同じ事が行なわれているが、女子には護身術も教えられている。

指導する立場での問題点など、責任者の木下さんにお聞きすると「参加者が多いのでもう少し広い道場がほしい」との事。

小学校体育館使用の点は用具置場（畳）建設との関係で遅れてはいるが、公民館や関係者の努力でそう遠くない日に実現しそうです

柔道にケガは付き物とお聞きすると、「ケガは受け身を良くやっているので少ない」との返事、この教室の責任者が整骨医師、応診鞄持参で何よりも心強い。

時間に遅れて来る一般参加者もあったりしたがそれぞれ練習を行っている。

やはり道場が狭く大人が遠慮して練習しているようだ。小学生は子供用の柔道着を身に付けて元気に練習している。

この教室の特長は「指導員に恵まれている事。保護者会が協力的で他地区に例が無い。」との事です

強い選手を育てるのでなく、柔道の基本を一人一人がしっかり身に付ける事を大切にしている。

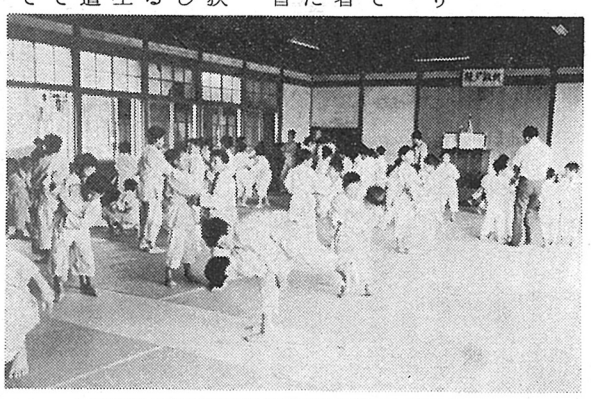
二ケ月に一回づつ練習の成果を見る試合を行う事にしている。七月一日には紅白試合が行なわれた

練習が終り、全員正座、黙とう上座に礼、指導員に礼、畳を運び終了した。

父兄が二名当番制で準備と掃除にかけつけて全てが終了。

柔道教室を訪ねて考えさせられた事は、今後一般的柔道教室が必要となるのではないかという点。人数が多く指導の目が届きかねているように見られる事。保護者会の協力が練習の準備・片付け・掃除と過保護ではないかと言う事。柔道を通して人間形成の一助とするには、指導に一層の研究が必要とされる事。

毎週土曜日の貴重な時間を柔道教室の指導に当る方々の熱意には頭が下がりました。



グループ紹介
大正琴
高齢者学級

皆さん、大正琴を弾いたことがありますか

最近、お年寄りの間で大変なブームを呼んでいますがこの四月から公民館の高齢者学級で、大正琴の練習を始めました。

月に二回、第一・第三の月曜日の夜になると風呂敷包みを大切にかかえて、楽しそうに公民館に集まります。そして、しばらくすると琴の音が聞え始めます。

去る二月の文化祭で、地区内のお年寄りが弾く大正琴の音を聞き「私たちも弾いてみたい。」という声から発足し、現在は六〇才以上のおばあちゃんが四十数名と、仲間もふえました。

経験者は数名。大部分は始めての人ばかりで、上郷町の岡島忠雄さんを講師に招き、「思ったよりむずかしい。」と言いながらも、時間の過ぎるのも忘れて練習に打ち込む二時間は、より多くの曲を早く弾けるようになろうと、さらに来年の文化祭でみんなに聞いてもらおうと、はりきっています。

待ちどうしく楽しみな練習の時今はまだ部屋の中だけで響く琴の音だが、やがて竜丘の隅から隅まで響き渡ることでしょう。

農繁期の内は夜ばかり月二回の練習ですが、農繁期が過ぎれば昼間に練習するグループとに分けることになっています。

お宅のおじいちゃん、おばあちゃん、琴の音を響かせることを、楽しみの一つに加えてみませんか

少年野球

少年野球教室は、昨年十一月に発足、小学四年生から六年生を対象に、小学校のグランドで日曜日に約二時間程開かれている。

現在二十五・六名の生徒が、白地にスカイブルーのユニホームに身をかため練習を行っている。指導者は六名が当番制で指導に当っている。雨天の場合は体育館で休まずに続けられている。

六月末の日曜日、あいにくの梅雨で体育館で練習しているところを訪ねてみた。

前日の土曜日に練習試合を行ったとかで、参加者は六名。指導者一名と教室としてはさびしい。

個人ノックが行なわれ、キャッチボール、ランニングなど二時間の練習が行なわれ、最後にゾウキンで掃除をして終了。

練習後指導員に話しを聞いてみた。「四年生が多く、この子等が最上級生になった時が楽しみだ。」「指導員の出席が、悪くなっている。」との事。

たいへん上手な子もいるが、キャッチボールがうまく出来ない子もいる。この子は「母親が勧めたから」と参加した動機を話す。必ずしも自分から進んで入った訳ではない。又ある子は「王選手みたいになりたい」とプロ野球選手にあこがれ、「早くレギュラーになりたい」とか「強いチームになりたい」などの答が返ってきた。

このように動機も違う子供達に野球をどう教えるのだろうか。野球教室の中、全ての子に野球の素晴しさを知らせ、落ちこぼれを出さない為に、今一度何をどう指導するかをはっきりさせなければならないでしょう。

指導員（コーチ）参加が今後の野球教室の成否のカギとなるようです。

二つの教室を訪ねてみると、それぞれ特色があり、指導員の方の努力で運営されているが、子供達に教える内容は違っても社会教育の一本の柱が確認されていないとそれぞれの方向に進んで大切な事を忘れてしまう点が心配です。

畜産団地の動き
公害の恐れも
新川上流

新川は竜丘住民にとっては、飲料水、又生活用水として、いつの頃も常に私達と共に「ひとつの流れ」と共に歩んで来た。

過去、新川を護る運動も展開されて一応成果も収めて来ている。新らたに新川上流に酪農団地が計画されている事で、畜産公害が問題化して来ている。

これは中央農協が第二次農業構造改善事業で行うもので、伊賀良三日市場、水呑原地籍に五戸の農家で七五頭の規模の酪農団地の造成が計画されている。

過日これら関係農家が下流である竜丘各区へ了解を求めて来た事で団地造成の概要が明らかになった。それによれば、新井原明星学園の上の段地の中央部の道路をへだてて二ケ所に建設、雨水排水は三日市場なぎ尻を経て殿岡新川に流れる。規模は、敷地八四一三㎡、牛舎五棟一一五三㎡、サイロ五基三一七㎡、堆肥舎三棟二〇七㎡、農機具格納庫一棟九八㎡、貯水槽一基一二㎡、放牧地五ケ所二四〇〇㎡となっている。

◎公害防止策として

①屋根雨水は樋によりマンホールからU字溝に排水する。

②敷地内の雨水は浄化槽三槽を作りU字溝に排水する。

③畜舎の尿は尿溜に取る。

④畜舎内の水及び管理室（家庭汚水）は尿溜に取る。

⑤尿と堆肥は分離して土地還元方式とする。

⑥蚊、ハエの防止のため鉄骨造りのサッシを用い消毒施設を設ける。

以上六項目の防止策を掲げている。これを受けて自治協議会（区長会）では各区とも即座に反対の態度をとっている。

竜丘衛生組合では未だこの問題について直接触れていないが、意見はまちまち、慎重に対処したいとしている。

「認められた施設で管理運営が出来れば反対は出来ないのでは」と現実的に見る農業委員の声も聞かれる。

放牧による汚水の心配が考えられる中で、この問題は尾を引きそう。過去にアノックスや桐林ヒルタの養豚団地の例もありとの問題も根は深い。

今後、酪農関係者がどの様な公害防止策を持って来るのか、まだ地区未端にまで知られていない話題だけにすべてはこれからと言った処か。

家庭雑排水のタレ流し、個人に寄る畜産公害が「新川のヨゴレ」と指摘する人が少なくない。

「魚の住める川」「子供達が魚を追う姿」を望むのが夢だろうか

新川に雑草が生い茂り、川巾も次第に狭くなって来ている。

川清掃の時期を迎えて、「水資源」「環境保全」を考えたいものだ。

灯籠流し
【市の三大祭り】八月二十日（日）

時又の灯ろう流しは五十数年の歴史を持ち、毎年盆過ぎに精霊を送ってきた恒例の行事であり、今年も八月二十日（日）に挙行される予定である。

観光都市飯田を大々的に売り出そうと今年から春の天竜川開き桜まつり、秋の飯田花火まつりと共に灯ろう流しも飯田三大まつりに設定され、市では「飯田三大まつり協議委員会」（会長・松沢市長）を組織し、予算を計上（灯ろう流しへは助成金六十万円）これらのまつりの充実を画っている。更に「時又灯ろう流し実行委員会」（会長・北沢小太郎氏）が六月十四日結成され、八月二十日に向けて着々と準備が進められている。特に当日の催し物をどうするのか色々な意見に検討が加えられ、各関係団体へ交渉中のものもあるが、既に従来行われなかった昼間のアトラクションとして、各地区に伝わる獅子頭展、民踊流しが決定されてわり、花火も一層豪華に、又天竜太鼓もまつりに色を添える。宣伝も関西・中京方面を始め、市県外各地へポスターを使い呼びかけ、今年は見物客の大巾増加が予想される。

市のバックアップにより規模が拡大し、それだけ関係者の苦労もふえる訳だが、あくまでも主体は地区民にあり、委員会では一層の協力・援助を望んでいる。金をかければ、それが良いまつりとは決して思わないが、我々が馴染んできた灯ろう流しが更に拡大発展していくことは嬉しく思う。

鉛筆かついで
八ミリ映画で
環境美化の一助に
長野原　伊藤　幹さん

八ミリ映画〝心なき〟ゴミ〟を自費で作り、ゴミ収集の面から、地域の環境美化を訴え、自分からも率先して、ゴミ収積所の管理を自主的に行っている人。すでに昨年信毎等にも報道されたその人は、長野原の伊藤幹さんです。お家は農協から駄科の県道へ通じる万場坂を下りた右側にあります。

伊藤さんがゴミ収積所の管理を始めたのは七年前、市の環境衛生課に直接頼み、現在地（万場坂中腹）に収積所が設置されてからだと云います。心なき人が出したゴミが犬に食い荒され、雨に打たれ又立看板が抜かれたり、時には定めた日以外に出した人とトラブルを起したこともあるとか……そのご苦労は大変なようです。

ゴミには、永久不燃物と云われる埋立ゴミ、資源として再利用出来る資源ゴミ、さらに日常生活から出る台所の廃物等の燃えるゴミの三種類あり、各々は収集日、時間、出す方法がきちんと決められている。これを守らないと収集所はゴミ捨て場となってしまう……。

おだやかな話し方である、それだけに尚一層の熱意が見られ、圧倒されてしまう。今回この八ミリ映画を作ったのは、一昨年娘さんが「つれて来た米国人が街の環境のすばらしさを賞めてくれたと云う。

しかし現実はどうか？実態を地域の人達に知らせて、環境美化の一助になればと云う事だった。幸い映画を見てくれた各地の人達、衛生組合の御努力により、収集所も大変きれいになったとのこと。そして現在パート2〝善意のゴミ〟映画を完成させ大変喜こばれたそうです。この四月国鉄を退職され現在は奥さんと二人暮し、これからは竜丘の年中行事を八ミリに収めたいと八ミリにかける夢は広がります。

尚、伊藤さんは、四月飯田市連合衛生組合長より、日頃の努力が認められ表彰された事を申しそえます。

最後に八ミリ映画に出てくる自作の詩を紹介します。

何人の　捨てしごみかわ
知らねども
その心根を　我は悲しむ
（K）

きれいになった収積所の撮影中でその完成がまたれている。

伊藤さんは八ミリ歴は約二年と浅いが、その前にはカメラにこっていたので八ミリの技術も相当なもの、昨年は職場の友人から結婚式の撮影をたのまれ、タイトル、音楽、ナレーション付で三十分の

あの人この人
四月一日～六月三十日届

◎永遠に幸あれ

（宮島　光男　上郷町）
（久保田八重子　駄科より）
（長沼　光人　千代）
（吉川美恵子　桐林より）
（百瀬　秀明　時又）
（岩田　真弓　泰阜村より）
（今村　正剛　時又）
（桜井千世子　上郷町より）
（下平　稔　桐林）
（市川勢津子　東京都より）
（岡村　誠人　桐林）
（上原　葉子　伊那市より）
（村松　孝一　駄科）
（湯沢やよい　座光寺より）
（原　健司　時又）
（川尻みつえ　飯田上より）
（野上　隆　時又）
（下平登喜子　高森町より）

◎伸びよ健やかに

氏名	部落	父名
唐沢　真希	長野原	慶治
杉本　菜実	時又	勝吉
木下裕美子	駄科	敦詞
奥村　健治	時又	健助
福沢　健司	時又	芳広
関島　登	桐林	茂登
中田　麻紀	桐林	一雄
宮下美紀子	長野原	恒雄
下平　光博	駄科	吾郎
古林　克仁	時又	鉄夫
清水　歩	駄科	迪夫
中島　英二	時又	興八
牧島　恭子	駄科	修
加藤　悦子	時又	誠
塩沢あさ美	桐林	昭義
今村　雅雄	時又	鼎町より
佐々木幸子	長野市	時又より
杉山　一男	上久堅	駄科より
下平　和美	時又	千代より
近藤　義人	時又	松尾より
下平　淑子	駄科	川路
今村　善一	時又	時又より
林　みね子	静岡県	桐林より
加藤　隆	駄科	上飯田より
田中　千江	時又	鼎町
清水　正隆	時又	時又より
今村由美子	時又	鈴加町より
西川　衛	駄科	上飯田
中島奈津子	駄科	駄科より
石田　隆保	駄科	
宮島　節子	駄科	
山田　実	駄科	
沖田美恵子	駄科	
代田　喜規	時又	
高田　真弓	時又	
伊藤　繁人	上飯田	
池田　文子	駄科より	

■御冥福を祈る

氏名	部落	姓	年令
態谷　優輝	駄科	明	
松田　浩孝	駄科	順男	
笹岡　俊宏	上川路	富男	
牧内　崇伯	駄科	章	
中平　順子	駄科	清	
前島　維男	桐林	男	八四
今村八千穂	時又	女	三七
木下　盛	駄科	男	八五
中平かつゑ	駄科	女	九三
木下　伸	時又	男	四一
林　保樹	桐林	男	八六
石田　清保	駄科	男	六三
田中　国男	時又	男	六四
林　弥八	桐林	男	八七
宮沢てるゑ	時又	女	七七
小林枝美子	長野原	女	六七

編集後記

連日の暑さの中で、館報も夏バテ……？

今年の第一号を次の新メンバーでお届けします。委員長　伊原聡副　熊谷伊久夫、浜島美博　委員大見新一、杉本勝吉、小林寿保、坂井利光、山田勝人、筒井保治、木下可楽、岡村巧の十一名です。

地区の皆様のご意見、ご感想をぜひお寄せ下さい。